

こうほう ショッキング

Vol.64

Kōhō shocking



いま むらじゅんいち
今村純一さん

●プロフィール

39歳。上対馬町比田勝出身、在住。比田勝中学校から諫早の長崎日大高校、福岡のコンピューター専門学校へと進学。卒業後、株式会社新光大阪支店で3年間勤務。23歳の時に帰郷し、実家のガソリンスタンドに勤務。現在、株式会社今村商店代表取締役。商工会青年部上対馬支部長として、地域の元気創出にも力を注ぐ。母と妻、1男3女の7人暮らし。

○島外での8年間の生活はいかがでしたか？

高校の下宿には対馬の先輩がいらっしやっただので、馴染みやすく楽しかったです。専門学校時代も、正直言って勉強より遊びが主な生活でした。生活が一変したのは、家業を継ぐ修行のために、大阪の会社へ入社が決まった時。急な欠員が出て、研修も受けずに即配属された営業所の所長は、厳しいことで有名な人でした。勤務表が出ると、所長と同じシフトがいくつあるかと数えて一喜一憂したものです。自分にも人にも厳しい所長は、社会人としての僕を叩き直してくれた恩師。一番影響を受けた人ですね。仕事も厳しかったです。全てが充実した3年間でした。帰りたくなかったですね。

○故郷に戻った15年前の対馬の様子は？

対馬はまだ合併前でした。住民も多く、仕事では建設業の人が多かったように思います。景気が良かったですから、夜の町も賑わっていました。僕もここにいるんな方のお付き合いを

させてもらいました。合併後、羽振りの良かった建設業の仕事量が減っていったのは、建設機械に使う軽油の配達量が減っていったことからもうかがえます。

○最近の上対馬は元気だなあと拝見しています。

地域のイベントや祭りなどを開催する時に活動の主体となるのが20〜30代。その若い力がたくさん動いてくれています。今は、8月16日に開催する「おっどん祭り」のために、日々頑張っています。合併後中止されていましたが、平成21年から復活させて今年で6回目になります。

○地域のお祭りの良いところは？

地域のお祭りは、経済的な事よりも「人と人との出会い」がメインだと思っています。わざわざ会うのは照れ臭い、でもそこに行ったら誰かに出会える、昔に戻れる…そんな役割が、地域のお祭りにはあると思うんです。子どもたちの夏休みの思い出に、再会の場に、また若者の出会いの場になるように願っています。

○今、対馬に大切なものは？

若い人の活躍だと思います。子どもたちが生活の中で楽しかったこと、思い出になることがたくさんあったら、それが「郷土愛」になっていくと思うんです。郷土愛を持てば、島外でも自分の町を自慢できるようにするし、それを聞いた人が興味を持って、対馬に来てみたくなる。自分の町を自慢するって、なかなかいですよね。僕自身も自慢したことがなかった。でも今は、たくさん自慢したくなるんです。自分の町・海や山・人が大好きだと感じて生きている人がたくさんいるんだぞ、って。そんな地域の人と繋がっていくなかで子どもたちに「対馬っていいな」と感じていってほしいんです。やっぱり大切なのは「人」ですね。僕たちは、子どもたちが将来対馬に帰ってきてくれるための活動をしている、という思いでこれからも頑張っていきます。

毎回、登場して下さった方にご紹介いただくこのコーナー。次回は上対馬町比田勝にお住まいの國分亜沙奈さんです。お楽しみに。